



今年もたくさん植えたよ!  
大きくなるのが楽しみです



今年も「山のない北村に森をつくらう」の願いを込めて、2月10日(土)、旧美瑛川の河川敷で「真冬の植林」が行われました。

## 「雪のチカラ」を借り、「真冬の植林」開催!

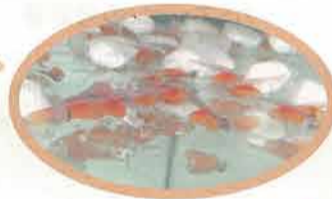
### 第5回 旧美瑛川雪中植林

午前9時半、岩見沢市北村にて植樹をしました。この植林の環境改善センターに市内外から200人ほどが集まりました。今年、新たに520本の木たちが仲間入りしました。種類は、ミズナラ、ハルニシ、カツラ、ハンノキ、サクラ、ヤナギなど賑やかな顔ぶれです。20年そして30年後、木たちが成長し、子供たちも成長し、「山のない北村」が「美しい森のある北村」に変わっている時代を夢見て、午後2時過ぎ、今年度の植林事業が終了しました。「大きく育て」との願いを込めて、なぜ、「真冬」に植林するのか? その答えは次ページ、東先生のお話にあります!



一昨年の雪中植林で植えた木です。カミネットコンに守られて、たくましく成長しています!

今年もサケの発眼卵の受け入れが12月7日に行われました。北海道立水産孵化場で受精してから20日ほど経たず、発眼したサケの卵。6万粒が流域の団体に引き渡されました。このうち幾春別川流域では、岩見沢市の団体の分が1万5,500粒、三笠市教育委員会の分が2,400粒でした。その後、岩見沢市と三笠市の小学校や企業など、84団体に配布されました。12月下旬、ニヶ所の受け入れ先を訪ねました。まず、岩見沢市のふれあい子どもセンターへ。あいにく、12月21日はまだふ化していませんでしたが、今回初めてサケの卵を見た子どもたちは、興味深そうに水槽の中をのぞき込んでいました。次に、三笠市立美園小学校(土屋政幸校長、全校児童106人)を訪ねました。同小学校では5年生の有志による「さけっ子クラブ」を組織し(今年度は13人)、代々飼育を担当するという珍しい取り組みをしています。12月28日、配布された400粒のうち8割ほどの卵の中から、かわいいサケの赤ちやんがお目見えしました! 感動の瞬間です。



▲ふ化したばかりのサケを愛しそうに見つめる三笠市立美園小学校の「さけっ子クラブ」の児童



興味深そうに水槽の中の卵を見つめる子どもたち

「お腹の袋が思ったよりも大きかった。さけっ子クラブに入って良かった」と部長の酒井美奈さん。「サケの体は小さいのに、大きくなって丸い袋がついて、びっくりにした」とは副部長の高長根楓さん。そのほかのみなさんも「動きがかわいい」「思っていたよりも速く動く」「袋の中の血管が透けて見えた」「早く大きくなってね」など感想を話してくれました。サケの子どもたちが元気に育って幾春別川に放流されるのが楽しみです!

## サケのタマゴさん、こんにちは! ただ今、サケ飼育奮闘中。 —三笠市立美園小「さけっ子クラブ」—

◀水槽の近くに用意されている「観察日誌」。毎日観察記録をつけています!



▲ゲンショウコ



▼ナワシロイチゴ

味の記憶がない。今度、じっくり味わってみようと思う。実がなる時期が今から楽しみである。

昔から民間薬として知られている、ゲンショウコ。漢字で「現の証拠」。民間薬として煎じて飲むとすぐに効果が出るので「ほら見る、直ったべ」と、効能がすぐにわかることから付いた名前らしいが、私自身、下痢止めとしか聞いたことがない。昔の人たちは色々と知っていたようである。昔の人たちが民間薬として利用していた草も、今では踏まれ放題である。この様に、すべての雑草(?)には「一種ごとに、きちんとした名前が付いている。今一度、見直してみよう。」

## ●ゲンショウコ(ラウソク科) ●ナワシロイチゴ(バラ科)

## 足元の草花たち

PART. 4

写真家 若林 信男  
(わかばやし のぶお)



池田 代志子さん、綾乃ちゃん(5)、響来ちゃん(3)

初参加です。子どもにこそ良い経験になると思います。一生懸命に取り組んでくれました。

おもしろかったー  
おもしろかったー  
おもしろかったー



工作みだいで面白かった!

牧野 真弓さん、将大くん(小6)、由佳さん(小5)



絵を描けて楽しかった! 寒くないように背中にカイロを貼っていました!

しもじ 下地 なつき 那月さん(小2)

### 冬を満喫! 雪中植林 1ページのつ・づ・き

植林だけで終わらないのが、この雪中植林の魅力! 木を植えたあとは旧美唄川の雪原で「スノーモービル」や「タイヤチューブすべり」を体験し、子どもたちは歓声をあげていました。読者のみなさんも、来年はぜひ参加してみませんか!

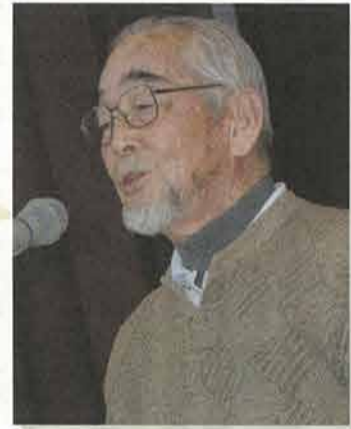


北村地区の雪原を疾走! 気持ちよかったです。



### なぜ真冬に植林?

降り積もった雪が布団がわりとなり、土の中は、あたたかさが保たれています。雪の下の土は凍らないので、植物のタネはじっと、力を貯めていることができます。そして、あたたかい春になると、タネや木の枝は元気よく芽を出します。こういう理由から、春に植林を行うよりも秋や冬のほうが、植物のためには良いのです。(講演会より)



カミネツコンの考案者 東 三郎先生 (北大名誉教授、砂防学専門)

## 冬の桂沢湖でおおはしゃぎ! 「桂沢悠遊冬あそび」

※この原稿は「悠遊桂沢倶楽部」が制作しました。



ネイチャーゲーム

「桂沢悠遊冬あそび」は将来的に、楽しく続けてゆける企画を探るという目的で行われました。地元の人でも意外と経験の無い「ワカサギ釣り」や、スノーシューを履いて湖畔の「散策とネイチャーゲーム」などの自然体験、「イグルー作り」にも挑戦しました。

ワカサギ釣りでは2時間で80匹以上も釣った少年が現れたり、参加者みんなが「まだ釣りたい!」と粘っていました。

悠遊桂沢倶楽部は三笠市、岩見沢市、北村地区の住民で構成されており、自分たちができる範囲で、ダム湖周辺の利活用を地域の活性化につなげようと頑張っています。イベント当日は春を感じさせるような好天で、40名以上が集まりました。

「桂沢悠遊冬あそび」は将来的に、楽しく続けてゆける企画を探るという目的で行われました。地元の人でも意外と経験の無い「ワカサギ釣り」や、スノーシューを履いて湖畔の「散策とネイチャーゲーム」などの自然体験、「イグルー作り」にも挑戦しました。

湖岸の散策では初めてのスノーシューに戸惑う子供達もいましたが、白銀に輝く桂沢の雪を眺めながらの素敵な時間となりました。ネイチャーゲームでは「ありやう、するいよ。」など、スタッフが用意したいろいろな仕掛けに苦勞しながらも、みなさん熱中していました。



ワカサギ いっぱいいるかな?



今回のイベント リーダー 駒田さん

この悠遊桂沢倶楽部は新しい組織ですが、いろいろな人々と協力しながら、将来の桂沢の可能性を広げる活動が続いていきます。皆さんも「悠遊桂沢倶楽部」主催のイベント案内を見たら是非一度参加ください。

参加した大人たちは徐々に無口になって、一生懸命、綺麗なイグルーになるよう努力しました。出来上がった子ども達の出番です。中に入ったりに上がったりで大はしゃぎ。今回初めて完成することができたドームタイプのイグルーは、直径が3メートルくらいで、子どもと大人をあわせて26人も中に入ることができました。

湖岸の散策では初めてのスノーシューに戸惑う子供達もいましたが、白銀に輝く桂沢の雪を眺めながらの素敵な時間となりました。ネイチャーゲームでは「ありやう、するいよ。」など、スタッフが用意したいろいろな仕掛けに苦勞しながらも、みなさん熱中していました。

湖岸の散策では初めてのスノーシューに戸惑う子供達もいましたが、白銀に輝く桂沢の雪を眺めながらの素敵な時間となりました。ネイチャーゲームでは「ありやう、するいよ。」など、スタッフが用意したいろいろな仕掛けに苦勞しながらも、みなさん熱中していました。

湖岸の散策では初めてのスノーシューに戸惑う子供達もいましたが、白銀に輝く桂沢の雪を眺めながらの素敵な時間となりました。ネイチャーゲームでは「ありやう、するいよ。」など、スタッフが用意したいろいろな仕掛けに苦勞しながらも、みなさん熱中していました。

湖岸の散策では初めてのスノーシューに戸惑う子供達もいましたが、白銀に輝く桂沢の雪を眺めながらの素敵な時間となりました。ネイチャーゲームでは「ありやう、するいよ。」など、スタッフが用意したいろいろな仕掛けに苦勞しながらも、みなさん熱中していました。



イグルーの中はこんな感じです▼

雅美の体験レポート



今回は、私たちの飲み水の供給源、「桂沢水道企業団」をご紹介します!

■幾春別川の流域には、川と関係の深い様々な施設があります。FMIはまなすの千葉雅美(ちばまさみ)が体を張ったレポートをしていきます。

今回の家・内・人

桂沢水道企業団 企業局管理課

課長 丹羽真一さん



安全でおいしい水をみなさまのもとへお届けするため、水質管理のあらゆる面で注意を払っています!

④ 水質検査室

何台もの機器が置かれていました。安全でおいしい水を供給するために、50項目の水質検査をしているそうです。



桂沢水道企業団の、みなさんのご苦労があってはじめて、わたしたちは安心して水道水を飲むことができるのだと、改めて感謝の気持ちを抱きました。これからもおいしいお水を作り続けてください!

— 千葉さん、長い間ありがとうございました! 編集委員一同

① 着水井 (ちゃくすい)

ダムから取水された「原水」はまず、この着水井に到着します。そして、水に含まれている泥を固めるために凝集剤と、消石灰を入れます。また、この段階で、葉っぱなどの大きなゴミをとりのぞきます。ときには、生きているワカサギが流れてくることもあるそうです!



写真の左側に見える茶色の水が凝集剤で固められた泥水。右側に見えるのが、きれいに処理された水です。

② 高速凝集沈殿池 (こうそくぎょうしゅうちんでんち)

着水井で処理された水を機械で勢よくかきまぜます。固められた泥は沈殿し、上澄みのきれいな水だけを次の処理施設へまわします。沈殿した泥は、屋外の天日乾燥床施設で泥と水に分離して、きれいな水は幾春別川へ放流します。自然のものは自然へ帰す、ということですね。

③ 急速ろ過池 (きゅうそくろかち)

水が②から③に移る間に塩素剤が注入され、殺菌消毒されます。この施設は、水を砂や砂利の中を通してろ過し、水の中の細かい濁りを取り除く池です。



完全にきれいになった水は水道水を貯めておく「浄水池」へと移されます。そしてその後、各自治体に送水されます。



こちらは、ろ過池を洗っている過程です!

きれいなお水ができました!! そして、浄水池へ...



この建物の地下に浄水池があり、水が大事に保管されているのです!



FMIはまなす 76. 1kHz

お宝 宝 康晴

川とわたしの思い出

私は、絵本の里 けん あいも学んだ気がします。ぶち。で知られる上川管 内剣淵町の生まれです。小さい頃は農業用水路などで毎日のようにウグイをとったり、友達、先輩に川に落とされたり落したり...。今の子供たちに危ないといわれながらも、そのうちから人のつき...



声問(えと)川でのEボート大会

この川が氾濫し、友達の家が水没。Eボートで避難している姿は、今でも目に焼きついています。ちなみに、剣淵川と長沼町の嶮淵川(けぬちがわ)が間違えらることは多々あります。私はいずれにせよ、声問(えと)川で当時のEボート大会(現某財団理事長に誘われてEボートに乗り、川下りを初体験しました。おたやかな流れで...



▲川の水質調査および水生生物の観察会、魚釣りなど



▲川辺での水遊び



木の種採り、種まき、育苗などの一連作業

わが町長沼町は、支笏湖に源を発する千歳川と、夕張山系に源を発する夕張川、そしてその両河川のほぼ中央(町の中心部でもある)には馬追運河が緩やかに流れる、緑豊かな田園都市を目指す町です。当長沼町は、開基120年になります。以来、洪水と水害との戦いであつたと言っても、決して過言ではありません。その様な河川環境のなかで良好な水辺環境、文化活動の啓発発展などを目的に、「リバーネット21ながめま」を平成14年7月に発足しました。■当会の現在の会員

わたしたちの活動紹介 Part. 4

川を中心にした活動を展開する仲間たちをご紹介します。

長沼町 リバーネット21ながめま



子供水防団 土のう積み体験

流域の人と歴史

洪水体験談 VOL. 4



増水した川の水が溢れかえった北美根地区

産化美川が氾濫し、イカダや舟で避難した昭和56年の水害。美根市は田畑の71%が冠水の被害を受けました

私の住む北美根は、美根市の北西に位置し、昭和20年代に戦後開拓地として入植が始まり開墾された地域であります。

開拓の歴史は、幾多の冷害や水害の戦いの日々でもあり、過酷な状況を克服し今日に至っております。そうした意味から、水害の想いは忘れがたく残っております。

記憶では昭和30年代に二度ほど大きな水害があり、その後、昭和50年、56年と数百年に一回

と言われるほどの大洪水に見舞われ、今もって忘れられない思い出の一つとなっております。なかでも、昭和56年の水害は、8月4日から6日までに降った雨が426ミリと未曾有の雨量を記録し、6日午前三時ごろ、産化美川の左岸の堤防が決壊。

ゴーゴーという不気味な水音とともに急速に増水、住民はイカダや舟を用意し、急いで避難したことを覚えています。何度も家の様子を見に行っただけで、床上1.5メートルの水はなかなか引かず、四日目にしてやっと家に戻ることができました。悪臭立ち込めるなか、散乱したものを片付け、掃除をするのに何日も掛かりました。

また、田畑は麦わらやドラム缶、ゴミなどが堆積し、後片付けに大変苦労したものです。

産化美川の決壊部分は約50メートル位あり、流出した泥水で付近の田畑の泥炭がめくれ上がり、巨大な土塊となって散乱し、水の力、恐ろしさというものを強く感じたところでした。

後の調査で、美根市においては田畑の71%が冠水の被害を受けており、その被害額も32億円を越す、戦後最大の被害であったと言われております。これを機に国の防災調査が入り、対策の見直しが行われるとともに、滝里ダムや砂川遊水地の完成、石狩川本流における背割堤の設置などにより、本流から支流への逆水が少なくなったように思います。

近年の異常気象が気になりますが、今年も平穏な一年であることを祈りつつ回想いたします。



美根市石狩川水系治水促進期成会会長 川端 道則

水辺の風景



「利根別川で憩うアオサギ」

撮影日 平成18年10月16日 岩見沢市 山田小夜子さん

岩見沢市立病院から駅に向かう途中に利根別川が流れています。増水などであちこちにゴミがひっかかり、決して美しい川ではありませんが、色々な鳥がいます。鴨の親子(7、8羽)や、名前はわかりませんが、小さな野鳥もいます。なかでも、このアオサギの美しさは格別です。思わず根田生花店裏の草むらを下り、運よく数枚撮ることができました。街中で、このような美しい鳥を見ることが出来るのはうれしい限りです。川があるせいでしょう。自然に近い状態が良いのかもしれない。こうした情景をいつまでも目にできることを願っています。

写真募集 あなたの好きな水辺の風景を写して、本紙事務局までお送りください!

応募内容

プリント、デジタル、ポジフィルムなど形態は自由です。写真のほかに、川に対する「想い」を100文字程度にまとめてお送りください。本誌「大好き! 幾春別川」に掲載させていただきます。※1人何点でも応募できます。また、写真の返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

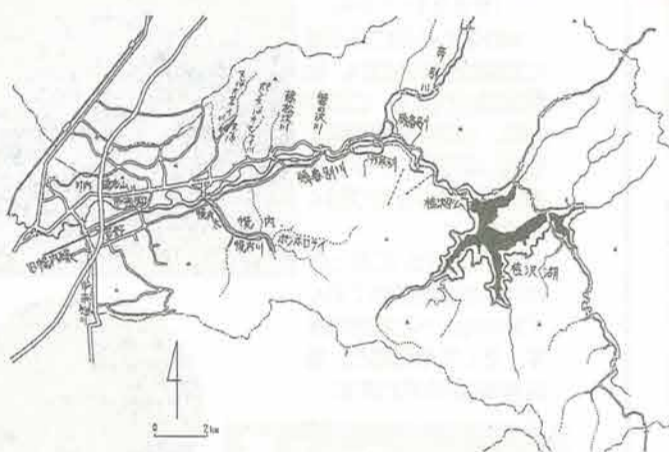
■送付先は、下記のおたより欄に記載してある住所までお願いいたします。

■おたよりお待ちしております! ■

本紙は、楽しい紙面を作るためにみなさまからのご意見や感想、また、今後取り上げてほしい記事の内容などについて、おたよりを募集しております。下記のあて先までおたよりをご郵送ください。

★送付先★

〒068-0007 岩見沢市7条東9丁目 石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所内 「大好き! 幾春別川」編集委員会事務局 ※ご質問の場合も、郵送またはファックス(0126-25-1697)へお願いします。



川の名前?

あれこれ

幾春別川と、その流域を流れる小さな川の名前の由来を「紹介します」

- 1. 奔別川(ほんべつがわ) ボン・ベツ(小さい・川)に漢字をあてはめたわけだが、小さな川とはいえない。川名のボロ・ボン(大・小)は近隣の川との比較で使われたのだろう(山田地名解)。この川を伐り出したところから「この川名になり、さうして」この流域を唐松といふことになった。
2. 弥生盤の沢川(やいばんのさわがわ) 弥生市街の西へ合流している川名。この川が作った沢をボロ・ラン・ニソ・オマ・ナイ
3. 藤松沢川(とうまつさわがわ) 開拓期に、この沢で藤松という植木が用材を伐り出したところから「この川名になり、さうして」この流域を唐松といふことになった。
4. 三笠峯内川(みかさほろないがわ) ボロ・ナイ(大きい・沢)に漢字をあてはめた川名である(山田地名解)。
5. 市来知川(いちきちがわ) 岩見沢市三笠市の境をなす川であり、アイヌ語のイ・チキル・ウシ(そのの・足・あとか・多くある処)に漢字をあてはめたと考えられる。この川から東の地域を古くから「市来知」といっており、空知集治監その建設された場所から「市来知集治監」と呼ばれたことがあった。

出典「空知のアイヌ語地名」 ※アイヌ語の解釈について、読者の方から出典元などについて意見をいただきました。今後は出典元を明記させていただきます。今後とも読者の皆様からの「意見」をお待ちしています。

読者の おたより

川の 思い出

パート1

「美根川での石炭拾い」 — 岩見沢市上幌向 山本信男さん —

美根川の上流には、三井美根炭鉱があった。選炭場から流れた軽い上質の石炭が下流に流れてきて、美根川に堆積していた。

この石炭を元村橋付近から拾い上げるのが、この近くの農家の夏仕事であった。一家総出で川に入り、「じょれん」や「とおし」を使い、石炭を掬い取る。集めた石炭は「ショイッコ」と呼ばれる背負い箱に入れて、道路まで運び上げる。これは過酷な労働であった。石炭の中には、石炭灰も2、3割混じって

いるので、できるだけ手で除けるが完全に除去できない。また、この石炭は軽く、川を流れている間に油成分が抜け、火力が少なくなっている。冬期間暖房に使用するには、買炭の4、5倍の量が必要となり、拾う石炭の量は8~10トンとなった。火力を補強するため、各家庭ではオガクズやもみ殻を混ぜ、燃料にしていた。もともと石炭灰が多く混入しているため、頻繁な灰捨てが大変であった。暖房効率が悪く、大型の貯炭式ストーブで昼夜焚き続けた(昭和23~24年頃)。※パート2は次回。

年間行事予定

■サケの稚魚放流壮行会

<岩見沢市の開催予定日>: 4月中旬 開催場所: 岩見沢市「川西大橋下流左岸」 主催: 幾春別川をよくする市民の会 <三笠市の開催予定日>: 4月9日 開催場所: 三笠市・水辺の楽校「であい」他 主催: 三笠市教育委員会

■川の日ワークショップ

開催予定日: 6月2、3日 開催予定場所: 旭川勤労者福祉会館

主催: 第6回北海道・川の日ワークショップ in 旭川実行委員会

■第15回 幾春別川カップin三笠 ~カヌー競技

開催日: 6月16、17日 開催場所: 三笠市西桂沢 主催: 三笠カヌークラブ

■フラワーライン

開催予定日: 6月下旬 開催予定場所: 狩野橋左岸下流付近 主催: 幾春別川をよくする市民の会

■河川愛護月間・空き缶拾い

開催予定日: 7月7日 開催予定場所: 岩見沢市北村 「旧美根川北栄橋下流左岸」 主催: NPO法人 山のない北村の輝き

■石狩川下覧権~川下り

開催予定日: 7月中旬 開催場所: 石狩川「深川~月形町」 主催: 石狩川下覧権実行委員会